

# 松陵

秋田県立能代高等学校同窓会  
事務局  
〒016-0184 能代市高城2-1  
能代高等学校内  
TEL 0185-54-2230  
FAX 0185-54-2231  
題字は神馬前会長

## 同窓会の皆さんへ



同窓会長 田中 仁純  
(第二十五期)

能代高校の同窓会会員の皆さんにはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。皆さんに会報「松陵」が手元に届く頃は平成十四年も過ぎようとしていると思います。この一年を通じてみますとさまざまな出来事がありました。同窓会においても能代本部において新年会や九月二十日の総会、それに東京同窓会、青森、北海道、そして秋田、県庁同窓会が総会を開き互いに会員の絆を深めあったことは意義深いことと思えます。それについても未だ支部活動のない所も多くあります。東北の拠点である仙台に

も同窓生は多いのではないかと思っております。一日も早く支部設立に立ちあがって行く熱血漢の出現を期待したいものです。話は飛びますが、北朝鮮に拉致され二十四年ぶりに一時帰国した五人の方々に拝見しますと家族、親類は別と致しましても、同級・同窓生との交流の中で最も帰国してのやすらぎと実感を得たことが報道されました。そして母校を訪れ、校歌と一緒に歌いあつて始めて故国の土を踏んだ実感が心の底からわいたように見受けられました。日頃は空気が同じ存在であるが、私たちの心のひだにも、



## 「教育改革の現況」

校長 阿部 正博

会員の皆様には日頃から母校の教育に深いご理解とご支援を賜わり心より感謝申し上げます。

さて、二十一世紀は期待と不安の中で二年が経ちました。我が国は経済不況から思うように立ち直ることができない状況にあります。その間にも国をあげての教育改革が進められています。「ゆとり」と「生きる力の育成」をめざし、今年度から学校五日制が実施されました。また、来年度は新しい学習指導要領の実施の年になります。

進学校の本校にとりましては大きな試練の時になります。幸い五日制については、県の「自学自習支援事業」は、

と先生方の全面的な協力のもと、週休土曜日に学校を開放し学習指導を行っています。また、来年度から学年進行で実施される新科目の「総合学習の時間」では、三年間を見通した進路指導を柱に計画を考えています。他に情報化社会に必要な「情報」という科目も設置されました。

本校は、目まぐるしく変化する入試制度等に振り回されない、腰を据えた教育活動を目ざし努力したいと考えています。

能代・山本地区は、新聞に発表されましたとおり、少子化にともない二学級が減になりますが、本校は現在と同じ募集人員です。こ

のうち一学級分の四十名が、二年次から適性や進路希望等により、新設学科である「理数科」に進むことになりました。中高生の理数離れが言われている中で、今年のノーベル賞に二人の日本人が、物理と化学の分野で受賞するという喜ばしい話題は、本校の理数科設置にとって大きな励みとなります。

この機会により一層の特色ある学校作りをしたいと思っております。

海岸線の松の緑が消え枯木の林が目立ちますが、本校の二千本余りの松の木は厳冬に向けて緑がより鮮明になっていきます。松葉は三年で代りたくましい木になるそうです。在校生が一人ひとり三年間で成長するよう教職員一同努力する所存です。今後も宜しくお願いたします。

## 能代高校同窓会 新年会のご案内

◆日時＝平成15年1月24日(金)  
受付：午後5時より  
講演会：午後5時30分  
講師：加藤 正人氏  
演題：シナリオ創作の裏側  
臨時総会：創立80周年記念事業について  
懇親会：午後6時40分

◆会場＝料亭「金勇」  
能代市柳町(電話55-3355)  
◆会費＝4,000円(当日持参)  
\*今回の当番幹事は、42期(新制24期)です。  
\*参加申し込みは、各期幹事または下記へご連絡下さい。  
◎申込締切＝1月20日(月)

同窓会事務局(能代高校内)  
電話(0185)54-2230  
FAX(0185)54-2231



# 恩師探訪

## 「懐旧」二話

納谷喜代松先生

(新制三期)



### 一話—三年おくれの 高校受験

#### 高校受験

ある日の昼どき、梨畑で仕事を  
をしていると、能代工業在学中  
の幼な友達がやって来て、畑の  
外から「納谷、ナシくれねえか」  
とねだるその学生服に見とれ、  
なんで自分がこんなボロの野良  
着をまよって「こやし」に埋ま  
つていなければならぬのかと  
発奮。ちょうど陸軍少年飛行  
兵学校から旧制中学同等の修了  
証をもらってきていたので、  
「よし、俺も受験して高校に入  
ろう」という気持ちになった。

とりあえず、例の幼な友達に  
相談した結果、どうせ三年お  
れの受験なら県下一の有名校の  
秋田高校をねらってやれ、とい  
うわけで早速校長へ直訴するた  
めに梨一袋を持参し、その友達  
と一緒に汽車で秋田高校の校長  
宅へ伺ったのである。初めての  
面談、「是非、この学校で学問  
の真理を究めたいから受験させ  
てください」と最大級の賛辞で  
熱意を示したが、穴のあいた丹  
前姿の校長が  
言うに、地元  
の能代高校は  
伝統的にも生  
徒の質も本校  
と比べてそん  
なに変らない  
から、と逆に  
諭されて仕方  
なく持参して  
いった梨の包  
みを出し惜し  
みしてそのま  
ま持ち帰り、

その足ですぐ能代高校の校長  
(関谷嘉門)宅へ向かったので  
ある。

当の校長は床の間の熊の皮に  
でんと座り、九州弁で厳かに話  
を切り出して緊張の連続だっ  
た。いろいろ話をしてから最後  
にポツと一言、「欠員があつ  
たら受験してもよい。追って連  
絡するから」と。これはした  
り！と梨の包みを置いて帰った  
のである。

それが一月であつたので、受  
験まで約三ヵ月、猛勉強して見事  
合格！三年歳下の連中に仲間入  
りして三年間一緒に過ごすこと  
になった。

### 二話—幻の 「高橋校舎」

#### 「高橋校舎」

樽子山から高橋の地へ校舎  
が移転した当初は周辺に建物  
が三々五々と散在しているだ  
け。そして車のない先生も  
生徒も通勤は大変で、冬道の  
自転車ではハンドルを握って  
いる手も凍てつき、スリッパ  
事故での転倒も後も絶たなか  
った。とりわけ地吹雪の日に  
は、田圃の中にポツンと立っ  
ていた新校舎が一瞬、幻のよ  
うに地上から消え去り、神隠  
しにあつたような錯覚に陥る  
こともしばしば。また東能  
代駅からの生徒たちは飛砂を  
口にしながらの徒歩だった。  
そういった悪戦苦闘の通勤の  
試練が野球の甲子園出場、大  
学受験の好成績につながって  
「文武両道」が開花し続けたと  
思う。旧き良き思い出の多い  
日々だった。

## 同窓生から

### 「入学試験問題」



佐藤 進  
(第二十二期)

平成十四年九月十七日ブラザ  
都で卒業五十周年同期会を開催  
し全国から五十七名の出席者の  
もと盛大でした。鬼籍に入った  
仲間が四十三名でした。昭和二  
十一年終戦の翌年併設中学校に  
入学し南高校から能代高校と校  
名が変るなか六年間同じ釜の飯  
を食った同志と言うことで絆の  
深さはどの期の皆さんにも負け  
ない二十二期です。丁度古希を  
迎える年になつても集つた連中  
の若いこと、いまだに若い女の  
ケツを追いかけている話題に笑  
い声が絶えない。唄の文句では  
ないが「明日があるさ」と意気  
軒高な三時間でした。その思い  
出の原点となる五十六年前の併  
設中学校の入学試験問題を今で  
も鮮明に覚えている。数学、国  
語、面接、体育の四つのテスト  
でした。数学は太田ビツシュ先  
生の作成した二問題。一問目が  
天秤の釣合の問題で天秤の中心  
から左側五センチの長さの竿の  
先の皿に五グラムの重りがのっ  
ているとき右側十センチ先の皿  
には何グラムの重りを乗せると  
釣合うか。二問目が鉛筆の体積  
計算の問題で先端の円錐形の部  
分にとぎりの円筒形の部分の体  
積の合計を答えよ。国語はナフ

### 満天星



小林 絢子  
(第二十五期)

図書館を出て、「働く婦人の  
家」の方へと歩き始めた私の行  
く手には鮮烈な紅があつた。以  
前、道場があつた辺りで、今は  
駐車場になつて居るがその土手  
の植え込みの満天星が今年も見  
事に紅葉している。そして、い  
つもそうであるようにこんども  
又鎌田宏先生のお書きになつた  
「花八つ手のころ」の一文を想  
い起こしていた。  
鎌田先生は私が一年の時の担  
任であり、その後、校舎が樽子  
山から現在の高橋へ移転した時  
に校長として赴任なされた方で  
ある。



この「花八つ手のころ」という名のエッセイはその移転の折の先生の心の揺らぎを綴られたもので、その中には次の様な一節がある。

「五十年の間すぐれた生徒たちをばぐくんできたこの校地と校舎にどう別れたらいいの、私は正直のところ自らに問い人にも問い草にも花にも問いかけた。惜別式を挙げ、生徒と一緒に運搬作業をし、最後の清掃をし、校歌を吹奏しながら市内パレードをしてみたが、しかし心に満たされないものがあつた。

新校舎に移って数日、森閑とした校舎に立ち寄ってみたらドウダンとニシキギが燃えるように紅葉して、栄光の校舎の最後の秋を讀んでいた。私はわけもなく涙を流した。」(鎌田宏著「番外より」私はしみじみと思

う。この感動を頷ち合える能高の生徒であつたことへの喜びと、このような方を長い間師と仰いでこられた幸せを……。

「四十年振りの同期会」



川間 政男 (第三十二期)

私共は今年の八月十五日、昭和三十七年三月の卒業以来二回目となる同期会を金勇にて行いました。今年卒業後四十年と

言うこと。来年二月一日に還暦を迎える

ことなどを記念して大々的にやろうと言うことで、五月中から幹事数人で「べらぼう」(同期生の成田君の所)で五、六回会合を重ね準備をしました。

まずは名簿作り。幹事が能代近辺にいなかつたクラスの名簿は空白が多かつたので、案内状に住所の分からない人の一覧表を同封し、案内状の出欠の返事の下に知っている人の住所を書く欄を設けました。

六月二十六日に案内状を送。その返事によつて分かつた人の住所にまた案内状を送つて大多数の同期生に連絡することができました。残念なことに亡くなつた人も二十四、二十五名いることが分かりました。

当日は横断幕を張り、昔の応援団長の指揮の下校歌を歌い、応援歌を歌い、思い切り飲み明かしました。四十年振りの同期生・同級生は本当に懐しくまた近い将来同期会を開くことを約束して別れました。

たつた四人しかいなかった女性が一人も参加されなかつたことが非常に残念でした。

「私の能代高校時代」



加藤 正人 (第四十二期)

私が能代高校に入学したのは昭和四十三年。三十三年も昔のことになつてしまつた。

私が高校に入学してすぐに永山則夫事件が社会に衝撃を与え

た。以後、アポロ十一号が月面着陸に成功し、よど号がハイジヤックされ、光化学スモッグが発生し、三島由紀夫が自決し、林彪が死に、レッド・ツェッペリンが「天国への階段」をリリースし、日活ロマンポルノが公開され、浅間山荘事件が起こつて、私は高校を卒業した。

私は、学業が嫌いな劣等生だつた。高校一年の夏に映画の世界に進むことを決意し、周囲の嘲弄の視線を浴びながら、黙々と教科書以外の書籍を読み耽つていた。映画人の未来を夢想し、悶々としていた。だが友人には恵まれた。たまに東京で、昔の友人たちと飲むことがあるが、皆立派に出世している。会えばすぐ方言になり、

高校時代の話に花が咲く。劣等生ではあるが、こんな私にとつても、能代高校時代は大切な思い出である。

「心が健康であれば」



小玉 金美 (第五十二期)

能代高校は現在国道沿いを車で走っていても、数年前と違つて校舎が見えません。それ程周囲に建物が増え、にぎやかな環境になりました。この十年間勤務して見慣れているはずの私でも通るたびに驚く程の変化です。それでも、現在能代高校に通う生徒は以前とそれ程変わつてなくて、ほとつとする面も時々あります。

例えばそれは、私がこの春まで担任をしていた生徒が、卒業する時生徒会誌に書いた言葉の中にあつました。「僕にとつてこの高校での三年間は多くの友人に巡り会えた時でした。おかげでいつも楽しく過ごし、困つた時には助けられ、本当に感謝しています。それから最も心に残つた言葉は『自由は勝手とは違ふ。責任を伴うものだ。』という言葉です。これから先、自分に責任を持ち、自由で、かつしつかりとした人生を送れたらと思います。」

自分が関わつた生徒が、「友の大切さ」を知り、「大人への自立の決意」を固めていることを見て、卒業後に大切だと思ふことはこういうことではないのかと感じ、うれしくなりました。世の中が大きな変化にさらされている今でも、人を思う心が健康であれば生きていけることを能代高校での三年間は教えてくれているのは昔も今も変わらないと私は感じています。この春から私は近くの高校に転勤になり、能代高校生の成長と活躍を先輩として変わらず応援していきます。

◎松陵委員会から

今回「松陵」第十四号を発行するにあたり、原稿をお寄せいただきました方々に對して心からお礼申し上げます。特に、前号から開始した「同窓生から」にお寄せいただいた原稿内容からは、それぞれの在学当時の様子・世相等をうかがうことができ、大変興味深く拝見させていただきました。

さて、「松陵」では引き続き同窓生の皆様からの寄稿をお待ちしています。在学中の思い出や母校への想い、または、各支部・各期同窓会の報告等、お送りください。同窓生の絆をいっそう深める同窓会誌「松陵」の紙面充実のためにご協力をお願いします。なお、原稿の送付先は能代高校内同窓会事務局まで。



# 母校は今……

## 女子バレーボール部 女子バスケットボール同好会 誕生!!

今年度、能代高校には女子の運動部・同好会が相次いで誕生しました。五年以上に及び同好会として活動し、日常の練習と大会の参加等の実績が認められて、この春晴れて「部」に昇格した女子バレーボール部(顧問 大倉昌充先生)。現二年生の女子七人が、入学後「愛好会」として活動をはじめ、生徒総会の承認を経て「同好会」への昇格を果たした女子バスケットボール同好会(顧問 太田研先生)。部員不足や練習場所の確保等で頭を悩ますことは多いものの、元気に活動を続ける彼女たちの声を紹介します。



私達が同好会から部へ昇格したのは、まだ三年生の先輩方と共に活動していた今年五月の生徒総会の時でした。部への昇格が決まった時は皆で喜び合いました。私が同好会に入ったのは、

### ◆女子バレーボール部

佐藤 恵美子  
(二年G組)

もちろんバレーボールが好きだったこともありですが、メンバーの雰囲気の良いさと六時から七時までという短時間の練習を集中してやっていたことに関心をもったからです。やはり始めは不安でしたが、実際自分が入ってみて楽しいと感じることができたのは、充実した活動をしてきたからだと思えます。部への昇格が決まった時点で、まだ一年生が一人も入っていない状態で不安でしたが、今は一年生も入り、部としての活動に更に気合が入っています。部になり活動時間や場所が変わったわけではありません。しかし、学校側や全校生徒の支援がより一層強く感じられることで、とても嬉しく感じています。部員六人というギリギリの人数ですが、これから新人戦に向けて団結し、記録を残せるよう頑張りたいです。



成田 巧  
(三年D組)

### NHK杯全国高校放送コンテストに参加して

#### ◆放送とは

放送コンテストには主に朗読、アナウンス、ラジオ番組、テレビ番組などの部門があります。朗読、アナウンスは決められた時間内に原稿(朗読は指定された作品、アナウンスは指定されたテーマに沿って自分で作った原稿)を読みます。読むにあたって活舌はもとより、発声や間の取り方、強弱のつけ方、作品の選定や内容などが重要なポイントとなります。ラジオ番組、テレビ番組は部員が協力して制作にあたり学校や地域に関する問題やニュースを伝えるというものです。放送に関する全

### ◆女子バスケットボール同好会

工藤 宏子  
(二年G組)



平成十四年度、能代高校に女子バスケット同好会ができました。これは私たちが活動を始めてから一年ほどのことで、それまでは自称・能代高校女子バスケット愛好会として日々練習をしていましたが、始めの頃は練習日程も組織も、全てが曖昧でした。練習道具はボール三つ。しかし、高校でもバスケットができる喜びをかみしめあっています。一人では出来ないことも、大勢いれば出来る、身を持って実感しています。同好会になりましたので、練習はますます

てにおいて言えることですが、テーマ、伝達力、表現力が優れていないと高く評価されません。部員は皆発表や番組制作を通じてこの力を養っています。

#### ◆我が部の活動内容

学校内の昼の放送を中心に六月に行われるNHKコンテスト、秋に行われるABSコンテストに参加することが能代高校放送部の主な活動です。大会に向けての発声、活舌練習も活発に行っています。

#### ◆今年の成績

六月に行われた秋田県高校放送コンテストでは、朗読・アナウンス合わせて六名が決勝に進み、朗読部門一名、アナウンス部門一名の計二名が全国大会の出場権を得ました。またラジオ番組二作品、テレビ番組一作品

が入選し、総合で銅賞を受賞しました。全国大会ではアナウンス部門に出場した一名が厳しい予選を勝ち抜いて入選するという好成績を取っています。

#### ◆現状

放送は中央地区が盛んで、それに比べると東北地区は一步遅れをとっているといっています。しかし、そんな中でも能代高校放送部の近年の活躍は素晴らしい、全国大会に出場する部員も多くなりました。日々の練習の積み重ねだけでなく顧問の先生方、先輩方の助言があったからこそ、と思っております。後輩には、互いに協力し合い良い作品、良い発表を目指してがんばってほしいと思っています。能高放送部が県大会で総合金賞を受賞する日が来ることを祈っています。

習日程も組織も、全てが曖昧でした。練習道具はボール三つ。しかし、高校でもバスケットができる喜びをかみしめあっています。一人では出来ないことも、大勢いれば出来る、身を持って実感しています。同好会になりましたので、練習はますます

### 進路状況一覧

平成14年4月最終集計

種別	年度		平成14年3月
	男	女	
卒業生	163	130	293
大学	国立	41	83
	公立	42	
	私立	65	
	短大	49	
短大	国立	2	9
	公立	7	
	私立	0	
	短大	4	
進学	計	108	210
	男女	102	
専修学校・各種学校等への進学	男女	21	33
	男女	12	
就職者	男女	10	12
	男女	2	
未決定者(その他を含む)	男女	24	38
	男女	14	
合計	男女	163	293
	男女	130	



# 部活動の記録

今年度も能代高校生は、校  
 である「文武両道」の達成  
 を目指して各分野で活躍を示  
 しました。今年度の運動部・  
 文化部の活動状況の概略をご  
 報告いたします。なお、個人  
 成績は紙面の都合上、各部か  
 ら特筆すべき成績のみを報告  
 していただきました。

## 運動部の活動状況



文章内の番号は、以下の大会  
 の種類を表しています。

- ①平成十四年度春季東北総体
- ②同春季全県総体
- ③同東北総体
- ④国体・インターハイ
- ⑤その他

### 硬式野球部

- ①優勝
- ②二回戦敗退
- ⑤甲子園予選二回戦敗退

### 軟式野球部

- ②ベスト4
- ⑤北東北予選 ベスト4
- ソフトテニス部 (男子)
- ①団体準優勝

### サッカー部

- ①二回戦敗退
- ②一回戦敗退
- ⑤選手権予選二回戦敗退

### 山岳部

- ①男子 能代A 一位
- 女子 能代B 五位
- ②男子 能代A 一位
- 女子 能代A 一位
- 能代B 四位
- 能代A 七位
- 女子 能代A 二位

### バスケットボール部

- ①ベスト8
- ②二回戦敗退

### バレーボール部 (男子)

- ①予選リーグ (二勝二敗)
- ②一回戦敗退

### バレーボール部 (女子)

- ①六位
- ②一回戦敗退

### 卓球部 (男子)

- ①団体二回戦敗退
- ②団体ベスト8

### 卓球部 (女子)

- ①団体一回戦敗退
- ②団体一回戦敗退

### 柔道部

- ①男子団体 優勝
- 女子団体 二位
- 個人優勝男子四人
- 個人優勝女子三人
- ②男子団体 三位
- 個人優勝
- 三浦さやか (52kg級)
- ③男子団体 予選リーグ一勝一敗
- ⑤県民体育大会 少年男子二位 藤嶋隆伯

### 剣道部

- ①男子団体 準優勝
- 女子団体 三位
- ②男子団体 予選敗退
- 女子団体 予選敗退

### 陸上競技部

- ②男子砲丸投優勝 三上尚治
- 同円盤投優勝 三上尚治
- 同走り高跳び 成田祐一
- 女子一〇〇m 六位 袴田美香

### 水泳部

- ①男子二〇〇mフリーリレー 四位
- 男子八〇〇mフリーリレー 四位
- ②男子四〇〇mフリーリレー 八位
- ③男子四〇〇mフリーリレー 予選出場

### 空手道部

- ①女子団体組手 優勝 田端麗
- 女子個人形 優勝 田端麗

### 体操部

- ②女子団体組手 優勝
- ③女子団体組手ベスト8
- 個人組手 鈴木千里 出場
- 田端麗 出場
- 畑川豊 出場
- ②個人総合優勝 平川雄貴
- ③個人総合十位 平川
- ④個人総合六十八位 平川

## 文化部の活動状況



### 演劇部

- ・東北地区高校演劇合同発表会
- ・能代山本地区高校演劇秋季コンクール参加
- ・第一回能代高校演劇部 自主公演(二月)

### 吹奏学部

- ・秋田県吹奏楽コンクール 東北地区大会 金賞
- ・吹奏楽コンクール秋田県大会 高等学校の部 銀賞
- ・第四十回定期演奏会(六月)

### 写真部

- ・秋田県高校写真連盟展(六月)
- ・能代山本地区高校写真連盟展 準特選 鎌田花絵 入選 二名

### 美術部

- ・秋田県高等学校美術展 絵画部門 推奨 三浦雄太 同入選 五人

### デザイン部門 入選 五人

### 放送部

- ・秋田県高校放送コンテスト 朗読部門優秀賞 成田 巧 同入選 二人
- アナウンス部門最優秀賞 能登万祐子 同入選 二人
- ・NHK杯全国高校放送コンテスト 同入選 二人
- ・ANAウンス部門入選 能登万祐子

### 茶道部

- ・裏千家東北地区大会参加 (五月)
- ・能高祭お茶会参加 (六月)
- ・おなごり茶会参加 (九月)

### 書道部

- ・全県席書大会 一等 二人
- ・第六十五回秋田県書道展覧会 褒状 三人
- ・税に関する作品展 金賞 二人

### JRC

- ・各種ボランティア等多数参加

### 囲碁将棋部

- ・高校囲碁選手権秋田県大会 男子団体戦 優勝
- ・全国高校囲碁選手権大会 男子団体戦 二回戦敗退
- ・東北地区高等学校囲碁選手権 男子団体戦主将 水木亨

### 弁論部

- ・東北地区高校 デイバート選手権 優勝
- ・全国高校デイバート選手権 ベスト16



# 支部だより

## 東京同窓会

会長 畠 豊彦

今年度総会は、十月五日千代田区市ヶ谷「アルカディア市ヶ谷」で開催し、来賓招待者を含め約百二十名の参加があり、賑々しく終了しました。例年と少し異なったのは、土曜日四時から開催、活動方針案の上程、同窓生有志による歌のアトラクションでした。若手や女性の参加を期待しての土曜日開催でしたが、結果は例年よりやや減少で、不況のせいかな?とも思われます。活動方針の基本は、年会費等の増取による財政基盤の安定化、広域の同窓生間の情報の共有化、母校・同窓会本部との連携強化です。インターネットによるホームページの活用が必須となつていくことでしよう。今年三月には母校校庭に花の咲く木の植樹をしましたが、母校やふるさととの連携交流が益々必要と思われまます。懇親会では、新制十八期生の加藤和海さんの演歌と新制四十三期生の福本円さんによるアリアの披露があり、盛り上がりました。最後に田中同窓会長より参加者の多いベスト三期に懐かしい東雲羊羹のプレゼントがありました。東京同窓会は、在京の能代高校出身者の心のオアシスの一つになれるように、活動をしていきたいと思ひます。お互いに情報を発信し合ひましょう。

事務局・〒一〇一〇〇一六  
東京都台東区台東四一三十一

五オリオンビル7階、島特許事務所内  
電話03-5816-4441  
FAX03-5816-4442



## 北海道同窓会

佐藤 満徳 (第三十期)

十月十九日札幌第一ホテルで二年ぶりの開催となりました。本校から阿部校長、松谷先生それに在札の大学生二名の招待者を含め十三名と少人数でしたが、盛會に終了しました。

帯広から菊地晃二氏(第二十七期)の乾杯の挨拶で十数年前出席メンバーの中心だったのが今回最年長になるとは感慨深げでした。

北大四年の西村鈴華さんは私が非常勤講師をしている講座の学生で、開発局勤務の青山光生氏とは同じ八童出身、高校大学の後輩にあたり全く世の中は狭いものです。

札幌大出身の原田考司氏は、全道長者番付常連で道内では抜群の眼科医です。帯広から忙しい中、かけつけてくれました。秋田銀行札幌支店長の大沼文哉氏の万歳で散会し薄野は馴染みのスナックでのカラオケ大会。夜の札幌は瞬く間に過ぎ去りました。



北海道観光の際は、こ一報くださればミニ同窓会を企画します。校歌を歌える店に案内しますよ。お待ちしております。

# 母校は八十周年を迎えます

能代高校は平成十七年に創立八十周年を迎えます。それに向け、去る七月十九日平安園において、同窓会・PTA・体育後援会・文化後援会・教育振興会の各会役員、そして学校代表が参加し、「創立八十周年記念事業実行委員会」の設立準備会を行いました。

ました。事業の詳細は未定ですが、決定次第、「松陵」誌上に掲載していきたいと思ひます。今後事業を行うにあたり、同窓生の皆様には様々な場面でご支援をお願いすると思ひます。母校の更なる発展のために、ご協力をよろしくお願いいたします。



## 同窓会会計報告

1. 経常費 収入の部 平成13年度分(平成13年9月1日より平成14年8月31日まで)

項目	13年度予算	13年度決算	比較増減	備 考
1 繰越金	310,915	310,915	0	前年度より繰り越し
2 入会金	1,411,200	1,406,400	▲ 4,800	4,800円×293名
3 会 費	1,900,000	2,185,640	285,640	
4 寄付金	0	0	0	
5 その他	85	1,030	945	預金利息、名簿売上
合 計	3,622,200	3,903,985	281,785	

項目	13年度予算	13年度決算	比較増減	備 考
1 会 議 費	600,000	513,974	▲ 86,026	総会・新幹会費、各支部会費等
2 慶弔費	20,000	29,669	9,669	電報
3 卒業関係費	119,070	114,607	▲ 4,463	入会記念品
4 通信印刷費	1,770,000	1,919,952	149,952	案内はがき、新聞広告
5 事務費	5,000	0	▲ 5,000	
6 寄付金	1,000,000	1,000,000	0	能代高校教育振興会へ
7 予備費	108,130	0	▲ 108,130	
合 計	3,622,200	3,578,202	▲ 43,998	

差引残高 収入3,903,985-支出3,578,202=差引残高325,783(次年度へ繰り越し)

種別	平成13年度元金	平成14年度元金	備 考
1 秋田銀行積立	27,059,159	27,777,353	入会金703,200(2,400円×293名)
2 郵便局	6,721,704	6,728,346	
合 計	33,780,863	34,505,699	

## 同窓会経常費予算

(1) 収入 平成14年度分(平成14年9月1日より平成15年8月31日まで)

項目	本年度予算	前年度予算	比較増減	備 考
1 繰越金	325,783	310,915	29,085	
2 入会金	1,372,800	1,411,200	▲ 38,400	4,800円×286名
3 会 費	1,900,000	1,900,000	0	
4 寄付金	0	0	0	
5 その他	17	85	▲ 68	預金利息など
合 計	3,598,600	3,622,200	▲ 23,600	

(2) 支出

項目	本年度予算	前年度予算	比較増減	備 考
1 会 議 費	600,000	600,000	0	総会等補助、各支部会費等
2 慶弔費	20,000	20,000	0	電報
3 卒業関係費	111,900	119,070	▲ 7,070	入会記念品
4 通信印刷費	1,800,000	1,770,000	30,000	会報印刷、発送費はがき、新聞広告
5 事務費	5,000	5,000	0	
6 寄付金	1,000,000	1,000,000	0	能代高校教育振興会へ
7 予備費	61,700	108,130	▲ 46,430	
合 計	3,598,600	3,622,200	▲ 23,600	